

## Silk Test 13.5

Silk Test Recorder  
クイック スタート チ  
ュートリアル

**Micro Focus**  
575 Anton Blvd., Suite 510  
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © 2012 Micro Focus. All rights reserved. Silk Test は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2012 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2012-09-19

# 目次

<b>Silk Test Recorder クイック スタート チュートリアル</b> .....	<b>4</b>
Silk Test Recorder の起動 .....	4
Insurance Company Web サイトのテスト ケースを記録する .....	4
Insurance Company Web サイトのテスト ケースを再生する .....	5
テスト ケースまたはプロジェクトをエクスポートする .....	6
Silk4J へのプロジェクトのエクスポート .....	6
Silk4J へのテスト メソッドのエクスポート .....	6
Silk Test Classic へのプロジェクトのエクスポート .....	7
Silk Test Classic へのテスト ケースのエクスポート .....	8
Visual Studio への Silk4NET プロジェクトのエクスポート .....	8
記録したテスト ステップの Visual Studio へのエクスポート .....	9
Insurance Company Web サイトのテスト ケースを変更する .....	9

# Silk Test Recorder クイック スタート チュートリアル

このチュートリアルでは、Web サイトのテストに Silk Test Recorder を使用できるよう、ステップごとに導入手順を説明します。Silk Test Recorder は動的オブジェクト解決を使用して、オブジェクトを検索し識別する XPath クエリを使用した、テスト ケースの記録、再生を行います。

Silk Test Recorder は次の種類のアプリケーションのテストを記録/再生できます：

- Adobe Flex
- Java AWT/Swing
- Java SWT
- Rumba
- SAP
- Silverlight
- Windows API ベースのクライアント/サーバー (Win32)
- Windows Forms
- Windows Presentation Foundation (WPF)
- xBrowser (Web アプリケーション)

説明をより簡潔にするため、本ガイドでは、Silk Test Recorder がすでにインストールされており、サンプルの Insurance Company (保険会社) Web サイト (<http://demo.borland.com/InsuranceWebExtJS/>) を使用することを前提としています。

Silk Test Recorder の詳細については、Silk Test Recorder ヘルプを参照してください。ヘルプを参照するには、Silk Test Recorder を開いて、**ヘルプ** > **ヘルプ目次** を選択します。

## Silk Test Recorder の起動

- **スタート** > **プログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **クライアント** > **Silk Test Recorder** をクリックします。Silk Test Recorder が開き、Silk Test Open Agent アイコンが、システム トレイに表示されます。

## Insurance Company Web サイトのテスト ケースを記録する

Silk Test Recorder がどのようにしてテストを作成するのかを確認するために、Insurance Company サンプル Web サイトのテスト ケースを記録します。

1. 次のいずれか 1 つのステップを行います：

- ツールバーの **●** をクリックします。
- **記録** > **記録の開始** をクリックします。

**新規アプリケーション構成** ウィザードが開きます。

2. **Web サイト テスト構成** をダブルクリックします。 **新規 Web サイト構成** ページが開きます。

3. **ブラウザの種類** グループから、**Internet Explorer** を選択します。

その他のサポート対象ブラウザの種類のうちいずれかを使用すると、テストの再生はできますが記録はできません。

4. 以下のいずれかのステップを実行します。

- **既存のブラウザを使用する**：テストを構成する際に、すでに開いているブラウザを使用する場合には、このオプション ボタンをクリックします。たとえば、テストしたい Web ページがすでにブラウザ上に表示されている場合などに、このオプションを使用します。
- **新しいブラウザを開始する**：テストを構成する際に、新しいブラウザ インスタンスを開始する場合には、このオプション ボタンをクリックします。次に、**ブラウズする URL** テキスト ボックスで、開く Web ページを指定します。

このチュートリアルでは、開いているブラウザをすべて閉じてから、**新しいブラウザを開始する** をクリックして、<http://demo.borland.com/InsuranceWebExtJS/> を指定します。

5. **終了** をクリックします。


Google Chrome の既存のインスタンスを選択している場合は、Silk Test Recorder がオートメーション サポートが含まれているかどうかをチェックします。オートメーション サポートが含まれていない場合は、Silk Test Recorder が Google Chrome を再起動する必要があることを通知します。

Web サイトが開きます。Silk Test Recorder は基本状態を作成し、記録を開始します。

6. Insurance Company Web サイトでは、次のステップのいずれかを行います：

- a) **Select a Service or login** リスト ボックスから **Auto Quote** を選択します。 **Automobile Instant Quote** ページが開きます。
  - b) 郵便番号と電子メール アドレスを適切なテキスト ボックスに入力し、自動車タイプをクリックして、**Next** をクリックします。
  - c) 年齢を指定し、性別と運転履歴タイプをクリックして、**Next** をクリックします。
  - d) 製造年、車種、モデルを指定し、財務情報タイプをクリックして、**Next** をクリックします。指定した情報の概要が現れます。
  - e) 指定した **Zip Code** をポイントし、Ctrl+Alt を押して、スクリプトに検証を追加します。  
表示されたどの情報に対しても、検証を追加することができます。  
**プロパティの検証** ダイアログ ボックスが開きます。
  - f) **textContent** チェック ボックスをオンにし、**OK** をクリックします。検証操作が、郵便番号テキストに対するスクリプトに追加されます。
- 各ステップに相当する操作が記録されました。

7. Recorder で、次のステップのいずれかを行います：

- ツールバーの  をクリックします。
- **記録 > 記録の停止** をクリックします。

8. **ファイル > 保管** をクリックします。

- a) テストを保管したい場所に移動します。
- b) **ファイル名** テキスト ボックスに、テストの名前を入力してから、**保管** をクリックします。  
たとえば、ZipTest と入力します。

テストが期待通りの動作をするか確認するためにテストを再生します。必要な場合には変更をするために、テストを編集することも可能です。


## Insurance Company Web サイトのテスト ケースを再生する

テストが期待どおりの動作をするか確認するためにテストを再生します。

1. メイン ウィンドウで、**再生速度** リスト ボックスから、テストを再生するために使用する速度を選択します。
  - **速い**：このオプションを選択すると、テストを最も速い速度で再生します。スクリプトは実際の速度で実行されます。その他の速度は、遅延機構を使用するため、テストを確認しながら実行することができます。

- **普通** : 通常、このオプションを選択すると、各操作を確認できるようになります。
- **遅い** : 各操作が確認できることを確実にするためには、このオプションを選択します。

**再生速度** リスト ボックスの後ろにある **再生時間** の時間を確認して、テストの速度を決定できます。

2. テスト全体を再生するには、ツールバーの  をクリックするか、または **再生 > すべて再生** を選択します。 Silk Test Recorder によってテストが再生されます。
3. エラーが発生した場合は、次のステップのいずれかを行います：
  - **再試行** をクリックして現在の操作を再生します。
  - **停止** をクリックしてテストを終了します。
  - **スキップ** をクリックしてテストの次の操作に進めます。


Silk Test Classic、Silk4NET、または Silk4J で使用するためにテストをエクスポートします。 または、必要に応じて変更をするために、テストを編集します。

## テスト ケースまたはプロジェクトをエクスポートする

以下の手順に従って、テスト ケースまたはプロジェクトを Silk Test Classic、Silk4NET、または Silk4J にエクスポートします。

### Silk4J へのプロジェクトのエクスポート

テストの主要 GUI として Silk4J を使用したり、テスト メソッドを整理したりするために、プロジェクトをエクスポートします。

1. **ファイル > エクスポート** を選択します。 **エクスポート** ウィザードが開きます。
2. **Silk4J プロジェクトとしてエクスポート** をダブルクリックします。 **Silk4J プロジェクトとしてエクスポート** ページが開きます。
3. **プロジェクトの場所** テキスト ボックスに、プロジェクトをエクスポートする場所を指定します。  
任意 :  をクリックし、使用するフォルダに移動します。
4. **プロジェクト名** テキスト ボックスに、プロジェクト名を指定します。  
たとえば、Web Sample Project と入力します。
5. **パッケージ** テキスト ボックスに、パッケージ名を指定します。  
たとえば、com.example と入力します。
6. **テスト クラス** テキスト ボックスには、テストが属するクラス名を指定します。  
たとえば、AutoTests と入力します。
7. **テスト メソッド** テキスト ボックスに、テスト メソッドの名前を指定します。  
たとえば、TestAutoInput と入力します。
8. **ファイル エンコード** リスト ボックスから、使用するファイル エンコードの種類を選択します。
9. **終了** をクリックします。

Silk Test Recorder は、プロジェクトを作成し、Silk4J にエクスポートします。

プロジェクトを Silk4J にインポートします。新しいプロジェクトは、基本状態やテスト メソッドも含んでおり、いつでもテストできます。プロジェクトのインポートに関する詳細については、『*Silk4J ユーザーガイド*』を参照してください。

### Silk4J へのテスト メソッドのエクスポート

テストの主要 GUI として Silk4J を使用したり、クリップボードに JTF スクリプトをコピーしたりするために、テスト メソッドをエクスポートします。

1. **ファイル > エクスポート** を選択します。 **エクスポート** ウィザードが開きます。
2. **JTF スクリプトとしてエクスポート** をダブルクリックします。 **JTF スクリプトとしてエクスポート** ページが開きます。
3. **エクスポート先** リスト ボックスから、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **クリップボード** : JTF スクリプトをクリップボードにコピーします。 既存の JTF スクリプトにスクリプトをコピーして貼り付ける場合にこのオプションを選択します。
  - **JTF スクリプト** : スクリプトを Silk4J にエクスポートします。 新しいスクリプトを作成したり既存の JTF スクリプトを上書きする場合にこのオプションを選択します。
4. **テストメソッド** テキスト ボックスに、テスト メソッドの名前を指定します。  
たとえば、TestAutoInput と入力します。
5. **パッケージ** テキスト ボックスに、パッケージ名を指定します。  
たとえば、com.example と入力します。
6. **テストクラス** テキスト ボックスには、テストが属するクラス名を指定します。  
たとえば、AutoTests と入力します。
7. **ソースフォルダ** テキスト ボックスには、テストをエクスポートする場所を指定します。  
任意 :  をクリックし、使用するフォルダに移動します。
8. **ファイル エンコード** リスト ボックスから、使用するファイル エンコードの種類を選択します。
9. エクスポートしたスクリプトに基本状態を含めるには、**基本状態を使用する** チェック ボックスをオンにします。  
基本状態を使用すると、テストするアプリケーションがフォアグラウンドで実行中であることを保証できます。 これにより、テストが常に同じアプリケーション状態で開始されることが保証され、信頼性が高まります。 基本状態を使用するには、メイン ウィンドウの外観、およびテストするアプリケーションが実行されていない場合のアプリケーションの起動方法を指定する必要があります。 基本状態の作成は任意です。 ただし、ベストプラクティスとして、基本状態を作成することをお勧めします。  
JTF にエクスポートする場合は、silk4j.settings というファイルが基本状態用に別途作成されます。 クリップボードにエクスポートする場合は、Before メソッドが基本状態を含みます。
- 10 **終了** をクリックします。  
Silk Test Recorder は、Java 言語を使用するスクリプトを作成し、Silk4J またはクリップボードにエクスポートします。

## Silk Test Classic へのプロジェクトのエクスポート

主要 GUI として Silk Test Classic を使用したり、テスト ケースをプロジェクトにグループ化するため、または SilkCentral Test Manager などの他の製品とデータを共有するために、プロジェクトをエクスポートします。

1. **ファイル > エクスポート** を選択します。 **エクスポート** ウィザードが開きます。
2. **Silk Test プロジェクトとしてエクスポート** をダブルクリックします。 **SilkTest プロジェクトとしてエクスポート** ページが開きます。
3. **プロジェクトの場所** テキスト ボックスに、プロジェクトをエクスポートする場所を指定します。  
任意 :  をクリックし、使用するフォルダに移動します。
4. **プロジェクト名** テキスト ボックスに、プロジェクト名を指定します。  
たとえば、Web Sample Project と入力します。
5. **4Test スクリプト** テキスト ボックスに、スクリプト ファイルの名前を指定します。  
たとえば、AutoTests.t と入力します。  
任意 :  をクリックし、使用するフォルダに移動します。
6. **テストケース** テキスト ボックスには、テスト ケースの名前を指定します。  
たとえば、testAutoInput と入力します。

7. テストケースをエクスポートしたあとに Silk Test Classic を開始するには、**エクスポートしたプロジェクトを Silk Test で開く** チェックボックスをオンにします。
8. **終了** をクリックします。

Silk Test Recorder は、4Test 言語を使用するスクリプトとリカバリ ファイルを含んだプロジェクトを作成し、プロジェクトを Silk Test Classic にエクスポートします。

Silk Test Classic を使用してエクスポートしたプロジェクトで作業することができます。新しいプロジェクトは、基本状態やテスト ケースを含んでおり、テストの準備が整っています。

## Silk Test Classic へのテスト ケースのエクスポート

主要 GUI として Silk Test Classic を使用したり、クリップボードにスクリプトをコピーしたりするために、テストケースをエクスポートします。

1. **ファイル > エクスポート** を選択します。 **エクスポート** ウィザードが開きます。
2. **4Test スクリプトとしてエクスポート** をダブルクリックします。 **4Test スクリプトとしてエクスポート** ページが開きます。
3. **エクスポート先** リスト ボックスから、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **クリップボード** : スクリプトをクリップボードにコピーします。既存の 4Test スクリプトにスクリプトをコピーして貼り付ける場合にこのオプションを選択します。
  - **4Test スクリプト** : スクリプトを Silk Test Classic にエクスポートします。新しいスクリプトを作成したり既存のスクリプトを上書きする場合にこのオプションを選択します。
4. **テスト ケース** テキスト ボックスには、テスト ケースの名前を指定します。  
たとえば、testAutoInput と入力します。
5. **4Test スクリプト** テキスト ボックスに、スクリプト ファイルの名前を指定します。  
たとえば、AutoTests.t と入力します。  
任意 : **...** をクリックし、使用するフォルダに移動します。
6. テスト ケースをエクスポートしたあとに Silk Test Classic を開始するには、**エクスポートしたスクリプトを Silk Test で開く** チェックボックスをオンにします。
7. **終了** をクリックします。

Silk Test Recorder は、4Test 言語を使用するスクリプトを作成し、Silk Test Classic またはクリップボードにエクスポートします。


## Visual Studio への Silk4NET プロジェクトのエクスポート

1. Silk Test Recorder のメニュー バーで、**ファイル > エクスポート** を選択します。 **エクスポート** ウィザードが開きます。
2. **Silk4NET プロジェクトとしてエクスポート** をダブルクリックします。 **Silk4NET プロジェクトとしてエクスポート** ページが開きます。
3. **プログラム言語** リスト ボックスから、プロジェクトで Visual Basic .NET または C# のいずれを使用するかを指定します。
4. **プロジェクトの場所** テキスト ボックスに、プロジェクトをエクスポートする場所を指定します。  
省略可能 : 使用するフォルダをクリックして移動します。
5. **プロジェクト名** テキスト ボックスに、プロジェクト名を指定します。たとえば、Visual Basic .NET Sample Project と入力します。
6. **名前空間** テキスト ボックスに、プロジェクトのコンテナ名を指定します。
7. **テスト クラス** テキスト ボックスには、テストが属するクラス名を指定します。たとえば、AutoTests と入力します。



8. **テストメソッド** テキスト ボックスに、テスト メソッドの名前を指定します。たとえば、TestAutoInput と入力します。
9. **終了** をクリックします。 Silk Test Recorder によって、記録したテストを含む新しいプロジェクトが作成され、指定された場所にエクスポートされます。この場所から、Visual Studio でプロジェクトを開くことができます。

## 記録したテスト ステップの Visual Studio へのエクスポート

1. Silk Test Recorder のメニュー バーで、**ファイル > エクスポート** を選択します。 **エクスポート** ウィザードが開きます。
2. **NTF スクリプトとしてエクスポート** をダブルクリックします。 **NTF スクリプトとしてエクスポート** ページが開きます。
3. **エクスポート先** リスト ボックスから、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **クリップボード** : 記録したテスト ステップをクリップボードにコピーします。記録したテスト ステップを Visual Studio プロジェクトの既存の Silk4NET テストにコピーして貼り付ける場合に、このオプションを選択します。  
 **注:** このオプションを選択する場合、ソースの場所または基本状態を指定する必要はありません。
  - **NTF スクリプト** : 記録したテスト ステップをテストとしてエクスポートして、既存の Visual Studio プロジェクトに追加できます。新しいテストを作成するか、既存のテストを上書きする場合に、このオプションを選択します。
4. **プログラム言語** リスト ボックスから、テストで Visual Basic .NET または C# のいずれを使用するかを指定します。
5. **テストメソッド** テキスト ボックスに、テスト メソッドの名前を指定します。たとえば、TestAutoInput と入力します。
6. **名前空間** ボックスに、テストのコンテナ名を指定します。
7. **テストクラス** ボックスに、テストが属するクラス名を指定します。たとえば、AutoTests と入力します。
8. **ソース・フォルダー** ボックスに、テストをエクスポートする場所を指定します。使用するフォルダをクリックして移動することもできます。
9. エクスポートしたテストに基本状態を含めるには、**基本状態を使用する** チェック ボックスをオンにします。

基本状態を使用すると、テストするアプリケーションがフォアグラウンドで実行中であることを保証できます。これにより、テストが常に同じアプリケーション状態で開始されることが保証され、信頼性が高まります。基本状態を使用するには、メイン ウィンドウの外観、およびテストするアプリケーションが実行されていない場合のアプリケーションの起動方法を指定する必要があります。基本状態の作成は任意です。ただし、ベストプラクティスとして、基本状態を作成することをお勧めします。
- 10 **終了** をクリックします。 Recorder により Silk4NET テストが作成され、指定の場所またはクリップボードにエクスポートされます。
- 11 エクスポートした Silk4NET プロジェクトを Visual Studio プロジェクトに追加します。 Visual Studio のメニュー バーから **プロジェクト > 既存の項目の追加** を選択し、エクスポートしたテストを選択します。



## Insurance Company Web サイトのテスト ケースを変更する

テスト ケースを記録した後で、このステップを実行してテストを手動で変更します。たとえば、追加の操作を記録したり、記録したステップの順序を変更したり、特定の操作のパラメータを変更したりできます。

1. 変更したいテストを開きます。
2. テストしている Web ページで、最初に記録を行った時の最後のウィンドウに移動します。  
たとえば、既存のテストが複数の Web ページを含んでいる場合には、テストの最後のページに移動します。

ここでは、既存のテストの記録が **Automobile Instant Quote** の概要ページで終了していますが、**ホーム** ページに戻って記録を開始します。つまり、記録を開始すると基本状態によって自動的に戻ります。

3. 変更を記録するには、次のステップを実行します：

- a) ツールバーの  をクリックします。
- b) **Select a Service or login** リストボックスから、**Agent Lookup** を選択します。**Find an Insurance Co. Agent** ページが開きます。
- c) ツールバーの  をクリックします。

4. 既存の操作、パラメータ、またはロケータ文字列を変更するには、次のステップを行います：

- a) 操作グリッド内の変更したい行をクリックします。  
たとえば、メールアドレスのパラメータに対する **SetText** 操作を含む行をクリックします。  
**操作の詳細** タブには、**ロケータ**、**操作**、および **パラメータ** が表示されます。
- b) ロケータを変更するには、**ロケータ** テキストボックスに文字列を入力します。  
ロケータ文字列によってテストしたいオブジェクトが識別されます。
- c) **ロケータの検証** をクリックします。Silk Test Recorder は新しいロケータを検証します。文字列が有効でない場合やオブジェクトが見つからない場合には、エラーが表示されます。
- d) 操作を変更するには、**操作** リストから操作を選択します。
- e) パラメータを変更するには、適切なテキストボックスにパラメータの値を入力します。  
たとえば、**SetText** 操作の **text** パラメータを "tutorial@yourcompany.com" に変更します。  
行った変更は直ちに操作グリッドに反映されます。

5. 操作を手動で追加するには、次のステップを行います：

大抵の場合、テストに追加したい操作を記録します。しかし、既存の操作を手動でコピー & ペーストして操作を追加してから、変更することもできます。

- a) **操作** リストの操作をクリックします。



**注:** Ctrl または Shift を押してからコピーする操作をクリックすると、複数の操作を挿入することができます。

- b) 次のいずれか 1 つのステップを行います：

- **編集 > 選択した操作のコピー** をクリックしてから、**編集 > 操作の貼り付け** を選択します。
- Ctrl+C を押してから、Ctrl+V を押します。

新しい操作が選択した操作の下に表示されます。

- c) 操作の詳細ビューで、ロケータ、操作名、またはパラメータを必要に応じて変更し、要求に合致するように操作を変更します。

6. **ファイル > 保管** をクリックします。

テストが期待通りの動作をするか確認するためにテストを再生します。

# 索引

## S

Silk Test Recorder の起動 4

## え

エクスポート

    テストケースを Silk4J に 6

    テストケースを Silk Test Classic に 7, 8

## き

基本状態

記録／再生の前に実行 9

記録

    サンプルのテストケース 4

    追加操作 9

## て

テストケース

    エクスポート 6-8

    サンプルの記録 4

    変更 9

テストケースの再生 5